

令和4年度全国学力・学習状況調査結果（小学校）

小学校・国語

分類	区分	国語			
		久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)	
全体		69	67	65.6	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.1	70.4	69
		(2) 情報の扱い方に関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.1	80.7	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	67.1	68.1	66.2
		B 書くこと	53.1	49.7	48.5
		C 読むこと	69.5	68.2	66.6
問題形式	選択式	74.3	73.3	71.8	
	短答式	67.8	65.1	63.6	
	記述式	55.2	53.1	51.3	

小学校・算数

分類	区分	算数		
		久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)
全体		64	64	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	70.4	69.9	69.8
	B 図形	65.5	64.5	64
	C 測定			
	C 変化と関係	51.4	51.8	51.3
	D データの活用	69.5	69.2	68.7
問題形式	選択式	53.8	53.1	51.8
	短答式	77.2	76.8	76.5
	記述式	59.9	59.8	60.2

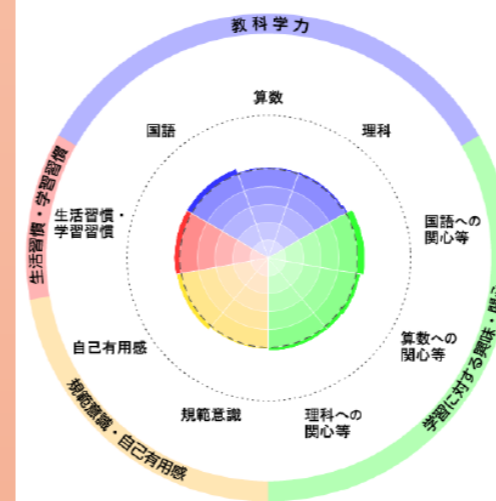
小学校・理科

分類	区分	理科		
		久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)
全体		65	65	63.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.4	52.5	51.6
	「粒子」を柱とする領域	62.6	61.6	60.4
	「生命」を柱とする領域	77.0	76.7	75
	「地球」を柱とする領域	64.2	65.3	64.6
問題形式	選択式	68.4	68.4	66.8
	短答式	69.2	66.3	66.2
	記述式	47.8	48.8	47.3

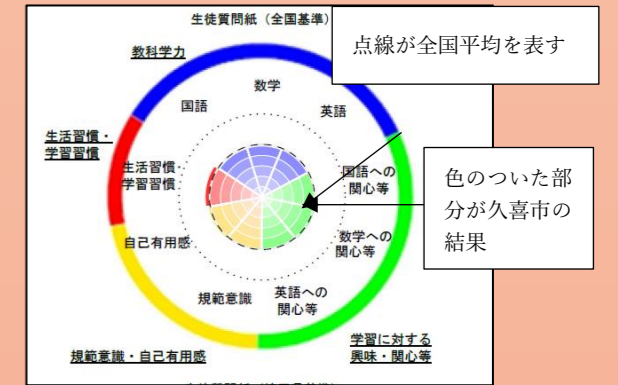
小学校・質問紙調査

質問紙調査 概要

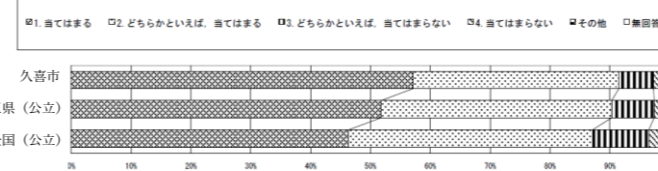
〔児童生徒〕
児童質問紙(全国基準)



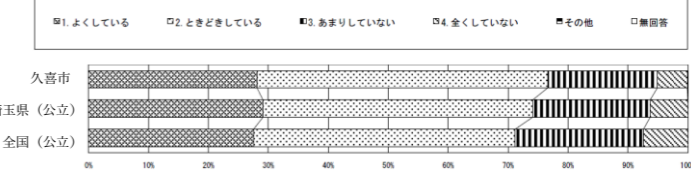
チャートの見方(例)



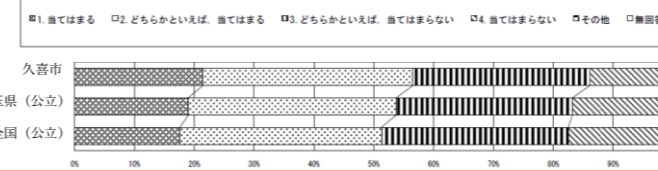
問 将来の夢や目標をもっていますか。



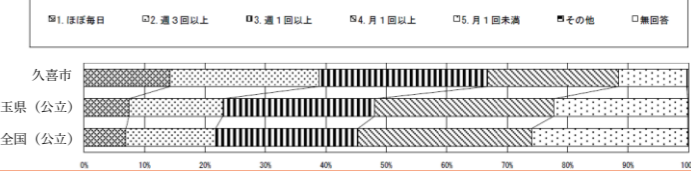
問 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



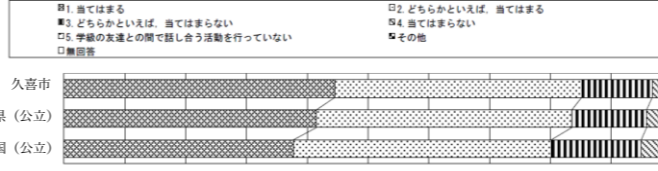
問 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



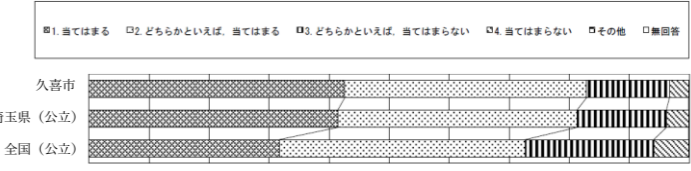
問 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。



問 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



問 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



◆成果と課題 (○：成果 ●：課題)

○成果 (○：全国平均を上回った ▼：全国平均を下回った)

国語		令和4年度 全国平均正答率との差	算数		令和4年度 全国平均正答率との差	理科		令和4年度 全国平均正答率との差
全体	国語	○3.4	全体	算数	○0.8	全体	理科	1.7
学習指導要領の内容	「我が国の言語文化に関する事項」	○6.2	学習指導要領の領域	A 数と計算	○0.6	学習指導要領の領域	「エネルギー」	○1.8
	書くこと	○4.6		B 図形	○1.5		「粒子」	○2.2
形式	「短答式」	○4.2		D データの活用	○0.8		「生命」	○2.0
	「記述式」	○3.9	形式	「選択式」	○2.0	形式	「短答式」	○3.0

国語では、全ての領域で全国平均を上回った。問題形式別では、全ての問題形式の正答率が全国平均を上回った。算数では全ての領域で全国平均を上回った。また、問題形式別では、「選択式」「短答式」の正答率が全国平均を上回った。理科では、「エネルギー」「粒子」「生命」の領域で全国平均を上回った。問題形式別では、全ての形式の正答率が全国平均を上回った。

●課題

国語においては「A 話すこと・聞くこと」「互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題」の正答率が低かった。算数においては「C 変化と関係」「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している問題」の正答率が低かった。理科においては「B 区分「地球」を柱とする領域」「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる問題」の正答率が低かった。これらを課題として、CBTによる市独自の学力調査を毎月実施し、その中で課題のある領域の問題を出題するとともに、一人ひとりの正答状況に合わせた補習問題を提供する、また学習系アプリの利用を促進する等、ICTを活用した「個別最適な学び」を推進し改善を図る。

